

文化財石垣保存技術協議会会報

平成27年（2015） 第15号 —平成27年度事業報告—

第2回技能者養成研修（講義）

日 時 平成27年10月10日（土）～12日（月・祝）

場 所 石川県教育会館ホール、史跡金沢城跡
（石川県金沢市）

受講者 評議員1名、技能会員12名、技術・研究会
員11名、一般会員4名、賛助会員1名、入
会申請中2名、事務局1名

研修内容

研修項目	講 師
開会挨拶	栗田純司（文化財石垣保存技術協議会会長） 栃木英道（石川県金沢城調査研究所副所長）
石垣技術書にみる 技の伝承	木越隆三（石川県金沢城調査研究所所長）
石垣を守り伝える ことの大切さ	北野博司（東北芸術工科大学教授）
座談会 文化財保存修理の 担い手として	司会 真鍋建男（技術・研究会員） パネラー 木越隆三、北野博司、栗田純徳、 一山隆昌（技能会員）、諏訪匡（技能会員）、 水野賀道（技能会員）
歴史資料としての 石垣の価値	北野博司（東北芸術工科大学教授）
土木構造物として の石垣の価値	西形達明（技術・研究会員）
石垣整備の理念と 計画	市原富士夫（文化庁文化財部文化財調査官）
石垣整備と調査研 究	富田和気夫（石川県金沢城調査研究所）
石垣修理事例報告 ①仙台城跡	一山隆昌（技能会員）
石垣修理事例報告 ②金沢城跡	林一伸（技能会員）
現地研修 金沢城跡石垣	西田郁乃（石川県金沢城調査研究所）



木越 講師



北野 講師



市原 講師



西形 講師



富田 講師



一山 講師



林 講師



現地研修 西田 講師

技能者養成研修（史跡金沢城跡）

中野浩幸（技術・研究会員）

本会設立から7年目の実施研修は、新幹線開通でホットな金沢の地での開催となりました。

初日の公開講座では、木越講師からは伝統技術は保守性と革新面がある事を学び、北野講師からは伝統技術が持つ自然知や身体技能などの力の重要性や、石垣の美的価値、修理時の真正性重要性などを学びました。

公開討論では、解体前の詳細な調査が文化財として石垣を修理する際の手がかりとして重要であることが技能者自身の経験をもとに語られましたが、このことは、翌日一山講師が発表された仙台城石垣修理にあたり、崩落したままの状態から手さぐりで元の痕跡を注意深く観察記録し分析したことにより驚異的な高い復元率で修復を完成させることに繋がったという発表によりリアリティを持って感じられました。この事例は事前調査の重要性に加え、石垣崩壊プロセスといった土木構造上の課題も含んだまさに文化財石垣修復技術の代表例と言えると思います。

西形講師の石垣の土木構造講義では、石垣変状とその要因から局所的か構造的かを整理判断するプロセスや、変状計測の方法、はらみ出し指数の留意点、地震実験結果からの栗石の重要性などを分かり易く解説していただき、何れも石垣解体修理の是非判断や範囲検討、修理方法の検討、石垣変状観察や記録の指針につながる重要な内容でした。

又議論の中では両者極論であることを前提に「解体修理ではオリジナル構造は完全には戻らない。解体する場合でも少しでも先に延ばすほうが情報取得技術の向上に比例して得られる情報は確実に大きくなるため、解体修理は慎重に判断すべき」とする意見や、「崩壊すれば被害は大きいし、解体でしか得られない構造情報もある。解体により得られた情報を共有しながら文化財としての修復を継続することが人材育成も含め、文化財石垣の継承になる」といった解体修理の是非を問う議論もなされた。

金沢城や兼六園の石垣修理をされた林講師の報告を伺った後、西田講師・富田講師の案内で玉泉院丸の色紙短冊石垣や城内を見学するなど有意義な研修と成りました。

後継者育成研修

日 時 平成 28 年 2 月 7 日(日)・22 日(月)～24 日(水)

場 所 史跡姫路城跡 石垣保存修理工事現場
(兵庫県姫路市)

受講者 技能会員 2 名

研修内容

研修項目	内容・講師
現場見学 現場実習	石積み作業、間詰石作業、石材調査等
総合討論	講師 西川禎亮 (中村石材工業㈱・本協議会会員)



間詰石研修



間詰石研修



石割研修

実地研修

第13回全国城跡等石垣整備調査研究会 (共催)

日 時 平成 27 年 11 月 5 日 (木)～7 日 (土)

場 所 弘前文化センター、史跡津軽氏城跡、堀越城跡・弘前城跡 (青森県弘前市)

受講者 評議会員 2 名、技能会員 20 名、技術・研究会員 20 名、一般会員 5 名、賛助会員 3 名、事務局 2 名

開催趣旨

テーマ 石垣整備と建造物 - その価値の保存と継承の在り方について -

主 催 文化庁 弘前市

共 催 文化財石垣保存技術協議会

研究会内容

平成 27 年 11 月 5 日

項 目	発表者等
主催者挨拶	鈴木修二 (文化庁文化財部記念物課長補佐) 葛西憲之 (弘前市長)
共催者挨拶	栗田純司 (文化財石垣保存技術協議会会長)
大会趣旨説明	市原富士夫 (文化庁文化財部記念物課調査官)
基調講演	長谷川成一 (弘前大学名誉教授) 「弘前城・弘前城下の成立・変容と弘前藩政の展開」
報告①	神 雅昭 (弘前市都市環境部公園緑地課) 「史跡弘前城跡本丸石垣修理に向けた基礎調査と天守曳家工事について」

平成 27 年 11 月 6 日

報告②	山下史朗 (兵庫県教育委員会文化財課) 「阪神・淡路大震災災害復旧における明石城巽櫓・坤櫓の修理と石垣修理」
報告③	三浦孝章 (高梁市教育委員会社会教育課) 「史跡備中松山城跡における石垣修理と建造物」
報告④	諏訪間 順 (小田原市経済部観光課) 「史跡小田原城跡馬出門の石垣と門・土塀の復元整備について」
報告⑤	佐藤哲夫 (文化財石垣保存技術協議会) 「石垣整備 (修復) 時の留意点-史跡松本城埋門南側石垣を事例として」

討論会	テーマ「石垣整備と建造物—その価値の保存と継承の在り方について— コーディネーター 宮武正登（佐賀大学全学教育機構教授） パネリスト 長谷川成一、山下史朗、三浦孝章、諏訪間順、佐藤哲夫、神雅昭
まとめ	市原富士夫（文化庁文化財部記念物課調査官）
次期開催地 挨拶	栃木英道（石川県金沢城調査研究所副所長）
閉会挨拶	佐々木 健（弘前市教育委員会教育長）



討論会



現地研修

■事務局からのお知らせ

事務局では「会員証明」の発行を行っています。業務などで必要な方は事務局まで発行をご請求下さい。

2009年第2回研修会の資料集（1000円）を販売しております。ご希望の方は下記の通り申し込み願います。

【申込方法】資料代金1000円は現金または郵便定額小為替、送料（金額要確認）は切手で、両方を現金書留等の郵送で事務局に申し込んで下さい。詳細は、姫路市立城郭研究室ホームページ（<http://www.city.himeji.lg.jp/jyokakuken/index.html>）にも掲載しております。

■事務局・広報担当からのお願い

○研修会などの参加感想や、文化財石垣について日頃疑問に思っていることなどありましたら下記事務局まで書面にてお知らせください。

年2回の会報ですが、可能な限りお答えしていきたいと思ひます。

○当協議会が実施する研修内容や項目について要望があれば書面で事務局までお知らせください。

内容を検討のうえ、各種事業に反映させていただきます。

○各地の文化財石垣情報、書籍、刊行物の発行がありましたら情報提供ください。

■入会手続き

入会をご希望の方は、まず事務局にご連絡ください。当協議会の入会申込書を送付いたします。また、当協議会のホームページからもダウンロードできますので、必要事項を記入のうえ、下記の事務局へお送りください。

役員会にて会員資格審査後、入会通知書及び会費納入の振込用紙を送付します。年会費（4月～翌3月）をお振込いただき、事務局で正式に受理した日から本協議会会員として登録します。

■文化財石垣保存技術協議会会員数

（平成28年 3月 31日現在）

技能会員	139名
技術・研究会員	88名
一般会員	30名
賛助会員	17名
評議員	9名

発行年月日 平成28年3月31日

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890